新版 評伝 与謝野寛 晶子

与謝野研究の第一人者による評伝決定版！

博捜収集した書簡二千五百通を読みこみ
鉄幹・晶子全集の編纂で培った
研究成果をふまえ活写！

逸見久美 著

晶子没後70年記念出版

全3冊・完結

明治篇 好評発売中
大正篇 好評発売中
昭和篇 12年7月刊行予定

内容見本

八木書店

A biography of Hiroshi and Akiko Yosano (1873-1935) and Akiko Yosano (1878-1942).
Hiroshi and Akiko were married couple. They were known as poets, writers and educators.

著者略歴

逸見 久美（いつみ くみ）

早稲田大学文学部国文学科卒業、同大学院修了、文学博士（実践女子大学）。女子聖学院短期大学教授、徳島文理大学教授、聖徳大学教授を歴任。

〔著書〕
『新版評伝 与謝野寛晶子 明治・大正篇』（2007－09年、八木書店）
『評傳 與謝野寛晶子』（1975年、八木書店）
晶子歌集―『みだれ髪全釈』（1978年、桜楓社）
『小扇全釈』（1988年、八木書店）
『夢之華全釈』（1994年、八木書店）
『新みだれ髪全釈』（1996年、八木書店）
『舞姫全釈』（1999年、短歌新聞社）
『恋衣全訳』（2008年、風間書房）
寛歌集―『むらさき全釈』〔鉄幹〕（1985年、八木書店）
『鴉と雨抄評釈』〔寛〕（1992年、明治書院）
『鴉と雨全釈』〔寛〕（2000年、短歌新聞社）

〔編纂〕
『翁久允全集』全10巻（1974年、翁久允全集刊行会）
『与謝野晶子全集』全20巻（1981年、講談社）
『天眠文庫蔵与謝野寛晶子書簡集』（植田安也子共編、1983年、八木書店）
『与謝野寛晶子書簡集成』全4巻（2001－03年、八木書店）
『与謝野晶子「みだれ髪」作品論集成』（2001年、大空社）
『鉄幹晶子全集』（勉誠出版、2001年より刊行中）

〔随想〕
『女ひと筋の道』（1981年、オリジン出版センター）
『回想与謝野寛晶子研究』（2006年、勉誠出版）

ご購入のご案内

明治篇 好評発売中
A5判上製・カバー装・768頁
定価12,600円（本体12,000円＋税5%）
ISBN978-4-8406-9035-5

大正篇 好評発売中
A5判上製・カバー装・512頁
定価12,600円（本体12,000円＋税5%）
ISBN978-4-8406-9036-2

昭和篇 2012年7月刊行予定
A5判上製・カバー装・620頁（予定）
定価12,600円（本体12,000円＋税5%）
ISBN978-4-8406-9037-9

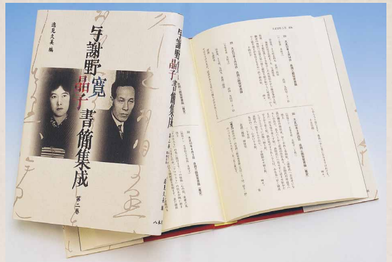
ご注文は、最寄りの書店、同封のハガキ、または小社ホームページよりお申し込み下さい。

関連書のご案内

日記の存在しない与謝野夫妻の日常をつぶさに語る
明治25年河野鉄南宛寛書簡から晶子没年までの
未公開書簡千三百通を含む二千百余通を収録

与謝野寛晶子書簡集成
逸見久美 編　全四冊完結　A5判上製・揃定価四三、四七〇円

第1巻　明治25年～大正6年　書簡416通収録・308頁
第2巻　大正7年～昭和5年　書簡557通収録・368頁
第3巻　昭和6年～昭和10年　書簡534通収録・312頁
第4巻　昭和11年～昭和17年・索引他　書簡601通・392頁
（①～③定価各一〇、二九〇円・④のみ一二、六〇〇円）



結婚後の心情を赤裸々に奔放に詠んだ歌集を丹念に評釈

夢之華全釈（晶子第六歌集）
逸見久美 編　発売中　A5判上製・312頁・定価五、九一三円

発行　八木書店 出版部
Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
●TEL：03-3291-2961［営業］ -2969［編集］ -6300［FAX］
●E-mail：pub@books-yagi.co.jp ●Web：http://www.books-yagi.co.jp/pub

取扱店

2012.6JP15000

刊行にあたって

昭和五〇年（一九七五）四月、『評傳與謝野鉄幹晶子』を九年がかりでやっと完成させた。処女出版だったこともあり、書き足りなかったことへの反省ばかりが強まった。『旧版評伝』出版後、もっと二人の作品を理解せねばという意識から、二人の歌集全釈に着手しはじめた。三〇年間に歌集全釈は晶子六冊、鉄幹・寛三冊、計九冊の全釈を果たした。

全釈の合間を縫って、二人の書簡を編年に収録した『天眠文庫蔵 与謝野寛晶子書簡集』一巻、および『与謝野寛晶子書簡集成』全四巻を仕上げた。これらと並行させながら講談社版『与謝野晶子全集』二〇巻を完結した。現在刊行中の勉誠出版の『鉄幹晶子全集』（全四五巻予定）をやりながら『新版評伝与謝野寛晶子』の『明治篇』『大正篇』を刊行し、今回の『昭和篇』をもって全三巻で完結することになる。この執筆を終えて、寛の偉大さを強く再認識した。

しかし、その道のりは決して平坦ではなかった。前記した処女作の『旧版評伝』は資料収集に二十余年、執筆に九年ほど要した。一方、『新版評伝』は明治、大正、昭和の三代を平成一九年から二四年までの五年間で三冊出版することができた。ここに大仕事を終えることができたのである。

今年は晶子没後七〇年に当たる。この年に『新版評伝』が完結し出版されることはこの上ない慶びである。

平成二四年六月　逸見久美

本書の特長

- 好評を博した旧版『評傳與謝野鉄幹晶子』（明治43年までを収録）から37年。『与謝野寛晶子書簡集成』や『鉄幹晶子全集』の編集、歌集全釈をなした著者が、その成果をふんだんにもりこんだ与謝野研究の決定版。
- 寛と晶子の生涯を、具体的な作品や書簡資料を活用して描く！

各巻の収録内容

【明治篇】
寛と晶子の生い立ち・出会いから、『明星』の創刊・廃刊と新詩社の動向、『みだれ髪』刊行や明治44年寛の渡欧までを収録。

【大正篇】
毎年のように出産し11人の子を育てながら、歌集や評論、古典訳など、幅広いジャンルの作品を生み出していった晶子と、それを蔭でささえた寛。与謝野夫妻が家族とともに歩んだ激動の大正時代を収録。

【昭和篇】
度重なる歌作りの旅、寛との死別を乗り越え、再度挑戦し完成させた蜻蛉日記・源氏物語の現代語訳、晶子没年までを収録。他に明治・大正・昭和の総合索引を付す。

明治篇　目次〈既刊・768頁〉

第一編　与謝野寛

第一章　与謝野礼厳（寛の父）／母初枝／兄弟

第二章　上京（明治二五年）以前
鹿児島時代（8歳〜10歳）／安養寺時代（11〜13歳）／岡山時代―安住院（13〜14歳　初恋）／京都時代（15歳）／徳山時代（16〜19歳）／『万葉集』崇拝と万葉廬詠草抄

第三章　寛（鉄幹）の上京
東京へ／落合直文と森鷗外／「鳳雛」／浅香社時代／「亡国の音」

第四章　渡韓

第五章　二詩歌集出版
『東西南北』／『天地玄黄』

第二編　鳳しょう

第一章　おいたち
駿河屋と晶子誕生／娘のころ

第二章　歌人としての出発
旧派から新派へ／新体詩から短歌へ／関西文壇と晶子／晶子の印象

第三編　寛と晶子

第一章　明治三三年（寛27歳・晶子22歳）
晶子書簡／初めての上京／二人の出会い／鉄幹対子規（不可並称説）／「やは肌」の歌／「明星」八号の発売禁止／明治三〇年から三三年までの展開

第二章　明治三四年（寛28歳・晶子23歳）
明治三四年の展開／鉄幹の二詩歌集／『恋衣』／晶子の上京／晶子の第一歌集『みだれ髪』／「片袖」創刊／『珍派詩文へなづち集』

第三章　明治三五年（寛29歳・晶子24歳）
新詩社発展の過程／新詩社への批判中傷／浪漫主義の始動／鉄幹の作品（『新派和歌大要』『うもれ木』）

第四章　明治三六年（寛30歳・晶子25歳）
「明星」の新しい試み／鉄幹・晶子の作品傾向／三六年の展開

第五章　明治三七年（寛31歳・晶子26歳）
三七年の展開／二つの作品（『小扇』『毒草』）

第六章　明治三八年（寛32歳・晶子27歳）
三八年の展開／『恋衣』

第七章　明治三九年（寛33歳・晶子28歳）
三九年の展開／晶子の二歌集（『舞姫』『夢之華』）

第八章　明治四〇年（寛34歳・晶子29歳）
新詩社発展のための行動／寛・晶子の作品傾向／新詩社における自然主義の評論／寛と自然主義文学

第九章　明治四一年（寛35歳・晶子30歳）
「明星」の発展／寛・晶子の作品傾向／『常夏』

第一〇章　明治四二年（寛36歳・晶子31歳）
「明星」廃刊後の新詩社／寛・晶子の作品傾向／『佐保姫』

第一一章　明治四三年（寛37歳・晶子32歳）
その後の新詩社／寛・晶子の作品傾向（『相聞』『女子のふみ』『槲之葉』『おとぎばなし少年少女』）／寛・晶子の文芸観

第一二章　明治四四年（寛38歳・晶子33歳）
寛の渡欧／晶子の作品（『春泥集』『一隅より』）／明治末年の展開

大正篇　目次〈既刊・512頁〉

第一章　明治四五年（大正元年　寛39歳・晶子34歳）
晶子の渡欧／二人の旅となって／晶子のパリ観／晶子の帰国／日本に帰着／寛ひとり残って／晶子の作品（『青海波』『雲のいろいろ』）／明治末年から大正初期へ／歌壇

第二章　大正二年（寛40歳・晶子35歳）
寛の帰国／『スバル』廃刊／晶子の作品（『新訳源氏物語』）／歌壇

第三章　大正三年（寛41歳・晶子36歳）
寛の渡欧中の抱負／平出修／「我等」創刊／帰国後のトラブル／寛・晶子の作品（『夏より秋へ』『巴里より』『八つの夜』）／歌壇

第四章　大正四年（寛42歳・晶子37歳）
寛の立候補／寛・晶子の作品（『和泉式部歌集』『さくら草』『新訳紫式部日記』『雑記帳』『鴉と雨』『うねうね川』『歌の作りやう』）／歌壇

第五章　大正五年（寛43歳・晶子38歳）
秀・麟・宇智子・光の出産／五男健の出産／上田敏／晶子の作品（『明るみへ』『朱葉集』『短歌三百講』『人及び女』『舞ごろも』『新訳紫式部日記　新訳和泉式部日記』『新訳往然草』）／歌壇

第六章　大正六年（寛44歳・晶子39歳）
六男寸の出産と死／晶子の作品（『我等何を求むるか』『晶子新集』『愛』『理性及び勇気』）／旅・歌壇

第七章　大正七年（寛45歳・晶子40歳）
天佑社・設立から崩壊まで／寛の腹案さまざま／晶子の作品（『若き友へ』）／旅・歌壇

第八章　大正八年（寛46歳・晶子41歳）
六女藤子誕生／晶子の作品（『心頭雑草』『行つて参ります』『激動の中を行く』『火の鳥』『晶子歌話』）／旅・歌壇

第九章　大正九年（寛47歳・晶子42歳）
『晶子短歌全集』刊行／晶子の作品（『女人創造』）／旅・歌壇

第一〇章　大正一〇年（寛48歳・晶子43歳）
いよいよ「明星」復刊／文化学院創設／晶子の作品（『太陽と薔薇』『人間礼拝』）／「明星」の二人の歩み／旅・歌壇

第一一章　大正一一年（寛49歳・晶子44歳）
『源氏物語礼讃』歌の成立／森鷗外／晶子の作品（『草の夢』）／「明星」の二人の歩み／旅・歌壇

第一二章　大正一二年（寛50歳・晶子45歳）
寛の生誕五〇年の会／有島武郎／『晶子源氏』の運命／晶子の作品（『愛の創作』）／「明星」の二人の歩み／旅・歌壇

第一三章　大正一三年（寛51歳・晶子46歳）
七瀬の受洗と若き夫の死／晶子の作品（『流星の道』）／「明星」の二人の歩み／旅・歌壇

第一四章　大正一四年（寛52歳・晶子47歳）
晶子の作品（『瑠璃光』『砂に書く』）／「明星」の二人の歩み／旅・歌壇

昭和篇　目次〈12年7月刊行予定・620頁〉

第一章　昭和元年（大正一五年　寛53歳・晶子48歳）
『日本古典全集』刊行まで／『日本語原考』／七瀬の結婚／二人の旅／歌壇

第二章　昭和二年（寛54歳・晶子49歳）
「明星」の終刊と復刊を瞰って／荻窪に家を新築／『日本古典全集』好調から破綻へ／二人の旅／歌壇

第三章　昭和三年（寛55歳・晶子50歳）
与謝野光と小林迪子の結婚／晶子にとっての「御大礼の感激／晶子の作品（『紫式部新考』『女詩人和泉式部』『心の遠景』『光る雲』）／歌壇

第四章　昭和四年（寛56歳・晶子51歳）
愛嬢（山本直正）の悲しい死／与謝野修の南米行き／晶子の誕生五〇の賀筵／二人の旅／二人の作品（『晶子詩篇全集』『霧島の歌』）／歌壇

第五章　昭和五年（寛57歳・晶子52歳）
『冬柏』創刊／寛と晶子の短歌評論／晶子生誕五〇年記念半折頒布会／寛の少年のころ／二人の旅／二人の作品（『満蒙遊記』）／歌壇

第六章　昭和六年（寛58歳・晶子53歳）
賀古鶴所の死／与謝野礼厳の追念碑／三人の子供たち／二人の旅／晶子の作品（『街頭に送る』『女子作文新講』）／歌壇

第七章　昭和七年（寛59歳・晶子54歳）
三つの詩／母与謝野初枝の思い出／寛の慶應義塾大学退職／二人の死／二人の旅／晶子の作品（『優勝者となれ』）／歌壇

第八章　昭和八年（寛60歳・晶子55歳）
寛のこと／『冬柏』発行所は平野宅から与謝野宅へ／二人の旅／歌壇

第九章　昭和九年（寛61歳・晶子56歳）
那須の雪／『与謝野晶子全集』／五男健の大怪我／防空の歌／啄木の思い出／二人の旅／歌壇

第一〇章　昭和一〇年（寛62歳・晶子57歳）
寛の逝去前年の旅／寛の死／いに昇天！／『与謝野寛書簡抄』と『註釈与謝野寛全集』／その後の『冬柏』同人たち／晶子の旅／『与謝野寛遺稿歌集』／歌壇

第一一章　昭和一一年（寛63歳・晶子58歳）
寛の亡き後の『冬柏』の動向／墓碑と「周忌／『得三郎晶子の絵歌屏風』頒布会／『九日会』について／晶子の旅／歌壇

第一二章　昭和一二年（晶子59歳）
寛の三回忌と晶子の発病／旅する晶子／歌壇

第一三章　昭和一三年（晶子60歳）
『新万葉集』／一度目の三回忌と四賀光子／晶子の病気／『現代語訳　蜻蛉日記』／晶子の旅／歌壇

第一四章　昭和一四年（晶子61歳）
『新新訳源氏物語』／晶子の旅／歌壇

第一五章　昭和一五年（晶子62歳）
倒れるまでの晶子の旅／二回目の脳溢血とその後の『冬柏』の歩み／歌壇

第一六章　昭和一六年（晶子63歳）
晶子の容態／寛の『采花集新選』与謝野寛詩集』出版／最後の晶子書簡／歌壇

第一七章　昭和一七年（晶子64歳）
死に至るまでの病態／ついに昇天／晶子追善の数々／その後の『冬柏』／晶子の遺稿歌集『白櫻集』／歌壇

第一八章　明治・大正・昭和　晶子の歩み／旅・歌壇

索引（明治・大正・昭和篇の総合索引）

あとがき

寛・晶子の諸作品

寛（鉄幹）・晶子合著歌集『毒草』
（明治37年、本郷書院発行）

晶子・登美子・雅子合著歌集『恋衣』
（明治38年、本郷書院発行）

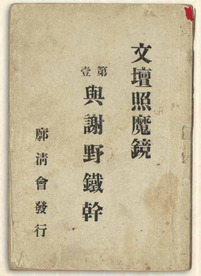
寛歌集『相聞』
（明治43年、明治書院発行）

晶子童話集『うねうね川』
（大正４年、啓成社発行）

寛・晶子合著紀行歌文集『滿蒙遊記』
（昭和５年、大阪屋号書店発行）

寛（鉄幹）を攻撃した怪文書

『文壇照魔鏡』明治34年発行。発行所・発行者はすべて架空。
寛を文壇から失墜させようとした誹謗の悪書。
（明治篇第３編第２章に詳述）



組見本（A5判を82%に縮小）

ポイント❶
著者自ら集めた書簡資料を駆使
著者自らが全国を博捜して集めた書簡約2500通を読み込んで、いきいきと描く。

ポイント❷
全集の最新成果を反映
『鉄幹晶子全集』（全45巻、刊行中）の編纂に携わった成果をふまえた最新・最高の与謝野研究。

第二章　昭和二年（寛54歳・晶子

第一節　「明星」の終刊と復刊を願って

「明星」は明治浪漫主義詩歌の過渡期であった明治三三年四月に創刊され、一時は歌壇の王座を占めるほどに輝いた時期もあったが、八年七ヶ月を経た明治四一年一一月に一度廃刊となった。その当時の心境を寛は小林天眠に宛てた書簡（明41・9・8）で、

財政不如意のため廃刊致候は身を切るにひとしき苦難に候へども今は已むを得ず候

と、その無念さを訴えている。そのあと復刊を何度か試みたが（『大正篇』238〜240頁参照）、歌壇の主流は写実の方向にあってままならなかったが、一三年目の大正一〇年一一月にやっと「明星」は復刊した。しかしこのころは「アララギ」全盛期で、「明星」は歌壇の傍流にあった。そうした中で寛と晶子を支持する多くの著名な文人画家、同人らの発起によって「明星」は復刊したものの、写実や万葉擬態や口語短歌の横行に抗し得ぬまま大正期の「明星」は断続的ながら刊行されていた。

「明星」は資金面で苦境にありながら、当時全盛であった雑誌「アララギ」の質素なのに比べて、その体裁は贅沢であった。ここに寛の理想主義（56頁参照）が反映していたと言えよう。その上、大正一四年末から前記したよ

第一節　晶子の渡欧――明治四五年五月五日、新橋発

㈠　夫の待つパリへ

晶子渡欧の四ヶ月前、メディアの眼に止まった記事に「東京日日新聞」（明45・1・25）があって「晶子女史の巴里行」と題して和服の顔写真を載せている。そこには「夫恋ふ心を歌に寄せて女詩人が美しき涙の匂ひよ」とあって「愛児保育の傍創作に勤めつゝあるが女史の詩才は鉄幹氏を恋ふるの情に依りて更に〳〵切に（略）」とあって晶子の歌三首を添え、最後に「此の女詩人が涙の鉄幹氏の胸に注がれん時詩情果して如何」と結び、甘い筆致で記者は捉えている。晶子自身の思いは

海ゆくと恋しき君を見にゆくと人の語れば涙こぼるる
まほろしの力を待てるやうなりしその相聞の日たちまちきたる

（「夏より秋へ」中　大3・1　753）
（右同上　28）

と歌う。夫の後を追って晶子は敦賀からウラジオストックへ、シベリヤ鉄道に乗りモスクワ経由でパリへ向かった。渡欧は資金面で諦めていたものの、夫の熱心な誘いと周囲の人々の厚意からついに渡欧実現の運びとなったが、いよいよ出発となると